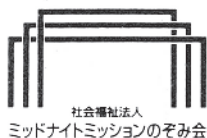




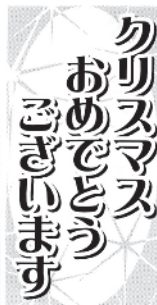
2007/12/1 No. 46



発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
 本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地



理事 山口 悦子



神の子、主イエス・キリストがお生まれになったクリスマスが近づいています。デパートでは所狭しと各種のクリスマス用品が売られており、世間では、イエス様抜きで、毎年派手に祝われるようになってきました。教会学校では、クリスマス劇の練習が始まり、その劇を通して多くの人に喜びを伝えることでしょう。

「のぞみ会」でも2施設4事業所でISO9001、2000の認証取得がなされ、地域にしっかり根付いた施設となり、大変嬉しく思います。目まぐるしい世の移り変わりの中、「のぞみ会」の掲げている理念を元に、福祉の新しい時代に遅れることなく、素晴らしい役割を果たしていることに感謝しています。思い起こすと、富津公民館大舞台で学園生による初めての演劇の発表会、その背景作りのため、シーツをつないで一針一針縫って仕上げた事、セリフをテープに吹き込み、何回も何回も練習に励んだ事など、なつかしい思い出です。

現在、富津市福祉大会では、毎年同じ舞台で「新生舎」利用者の皆様が、オープニング

セレモニーでヨサコイソーランを披露しています。堂々と力強く、自信を持って演じている姿を見て、開所当時の三名の姿が目に見え、感無量の思いになります。

新設の「かずさの里」も、訪問するたびに感じることは、入所者の明るく、素直な、くっつくような表情、行動、会話です。職員やさしい見守りの中でそのようにすくすく成長している姿を見ると、神様の業の素晴らしさを実感します。

ボランティア活動として、今まで、施設側で行っていた富津市委託の通所介護予防事業が昨年一二月で打ち切りとなりましたが、利用していた方々の強い要望もあり、また井本常務理事の取り計らいがあつて今も継続しています。八六歳の人生の先輩を筆頭に皆様高齢にもかかわらず、明るく生きるモットーに、健康が持続できる軽体操を行っています。会の名前は、「いつまでも若い会」、まさに名前の通り、誰もが若い。この会は、「かずさの里」のピーターパン基金にも協力している会です。

世の中をにぎやかにしている政治のスクランダル、各種の不正行為等、困ったものですが、どのような世の中にあっても私たちはボランティア精神を忘れずに、与えられている主の働きに忠実にあたっていきたいと、もう一度深く思わされています。

皆様の上に、主の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。

児童養護施設

望みの門がずさの里感謝祭報告

主任事務員 佐京 正範



感謝祭〜一六二〇年九月六日、メイフラ
 ワー号に乗った清教徒こどもを含め一〇二名
 はマサチューセッツの海岸に辿り着く。本国
 イギリスで迫害を受けた彼らは希望の地、新
 大陸へとやってきたのである。しかし、未開
 の地で彼らの幸福は長く続かない。飢えと冬
 の寒さに直面し、清教徒たちの半分が死んで
 いった。そんな中、彼らを助けたのはアメリ
 カ先住民の人々だった。先住民らは「自分た
 ちの土地に無
 断で入り込ん
 で来た」と怒
 りを表してい
 たが、この余
 りに悲惨な状
 況を目にする。
 そこで清教徒
 たちに七面鳥
 を与え、とう
 もろこしやか
 ぼちの栽培
 を教え、様々
 な知恵を授け
 た。翌年には
 かなりの収穫

を上げることが出来たという。清教徒たちは感謝の祈りを捧げ、犠牲となった仲間を偲ぶ宴を先住民も招いて催した。これが感謝祭の始まりと言われている。

約四百年後の平成一九年一月三日、望みの門がずさの里にて感謝祭を開催いたしました。イメージは法人本部バザーの賑わいを描きました。開設後初めての催しであり見通せるものが少ない。そこで、今の里に合わせた風呂敷を広げようと企画作りを始めています。昨年一二月に開設して以来、様々な方の協力の下で運営が成され、特に地域の方には子どもたちの事で、日常的にご支援を頂いている。その思いを表す。施設長を先頭とし、我々も地域に感謝祭開催を伝え回りました。一軒ずつ伺いながら感じたこと。里の子どもたちの暮らしぶりを、地域として受け入れて頂いていることに改めて気づき、そして同時に我々が背負うものの重さを感じています。当日、告示した開催時刻が近づくにつれ、どれほど来訪して頂けるのか思い案じましたが、晴天でこの日を迎えられることが不安を減らしました。和やかな空気の中、一人ふたりとお客様を迎えながら、心の内で感謝。初開催にて知名度も浅い中、道に迷いつつ来てくださった方も大勢いました。天羽高校・中学校共同の合唱演奏が始まり、模擬店やゲームコーナーが賑わいだし、バザー会場の会計が混み出す。再び目を細めながら感謝。今回、収益を目的としない。喜んで貰いた



い。企画の根をそこに置いたこともありませんが、長閑な雰囲気でお祭りを閉じることができたと思います。

冒頭で触れた感謝祭の由縁を紐解くと幾つかの説はありますが、感謝を捧げる

出来事があったことに違いはありません。飢え・寒さ、そして死からの救い・・・感謝できることこそ幸せなこと、という考え方もありますし、この報告を打ち込みながら、改めて『感謝』の言葉の意味合いを考えさせられた思いでいます。我々支援者は、感謝されることを目的に支援をしていません。あたりまえのように、傷ついた子どもたちに七面鳥やとうもろこし、そして知恵を授ける。このことが彼らにとって、後々の人生を歩む上で財産として残るようならば、我々も幸せを感じ、そして彼らに感謝するのだと思います。最後になりますが、企画の段階から当日まで協力を頂いた実行委員を始め、応援して下さった皆さんにも深く感謝し、無事に終了できたことを報告いたします。

地域交流秋季スポーツ大会報告

望みの門楽生園副施設長 白鳥 正道

去る一〇月八日体育の日に第三八回地域交流秋季スポーツ大会が望みの門新生舎のグラウンドで開催されました。

昨年に引き続き富津市社会福祉協議会会長を始め、職員の皆様方のご協力のもと地域のお住まいの方々にも多数ご参加いただき、大変感謝でした。

房総太極氣功協会氣友会グループも、会長はじめ二〇名の方がご参加くださり、琉球太鼓を使った演舞をご披露いただきました。若干時間の関係で短めの演舞となり、大変残念でしたが、力強く、見て聞いて、とても楽しいものでした。



また、今回は望みの門かずさの里も参加し、子どもからお年寄りまで「皆で一つのことをがんばる」貴重な体験となりました。模擬店では準備の段階から、多くの人に喜んでもらえるように、パン、焼きそば、フラック、焼き鳥、ジュース、肉まん等々、いろいろ準備しておまつりのような楽しい雰囲気を感じました。

当日はあいにく小雨がばらつく天候のため、プログラムの変更をせざるを得ない状況でしたが、皆さんのご協力のおかげで、大きな事故無く、楽しく過ごすことができました。近隣の方々には、駐車場や大音量等で大変ご迷惑をおかけした事と思いますが、快く応援していただき、心から感謝いたします。改めて地域に支えられた法人であることを痛感するとともに、地域に必要とされる法人として、もっと地域との繋がりを太くしていくことが必要だと感じました。



着任挨拶

神に遣わされて

望みの門学園施設長 坂井 順子

一〇月一日から望みの門学園の施設長を命じられました。学園は、一九九三年から木下ドーナ園長の時代に三年間、五年前からは吉田園長の下で働かせていただきました。この春からは、かずさの里の副施設長として幼児と関わり「じゅんこばあば」と呼ばれ、悦に入っておりましたが、別れた学園の利用者の一人ひとりの顔がいつも心に浮かび、できるなら学園に戻りたいとの思いが募りました。

一方痛めていた両膝の症状が進み、子どもの動きについて行けなくなったので、職を辞する決意をしました。そんな折、井本常務から学園に施設長として戻るように言われ驚きました。能力の無いことは自分が一番良く判っていますが、考えると利用者と一緒に生きて行こうという気持ちは、誰にも負けたくらい持っています。

殆どの利用者は、複雑な過去を背負って来た人たちです。学園に入所したのは、神の深い御摂理であると信じます。そんな利用者の一人ひとりが、自分が神と人の前に大切な存在であることを知り、いつの日か、自分が望みの門学園に入所して本当に良かったと思うことができる生活をして欲しいと強く望んでいます。彼女たちの自立に向けて、職員と共に

に出来る限りの支援をして行こうと願っています。

婦人保護施設

望みの門学園『ステップハウス』

栄養士 苺込 絹恵

今年一〇月、二名の利用者が暮らし慣れた『望みの門 学園』から社会生活への第一歩を踏み出し、ステップハウスへと移り住みました。

ステップハウスは、学園から近い将来退寮していく利用者を対象に、六ヶ月を目安に学園管理で借りたアパートに住み、そこでの生活を通して全ての面での自立を目指して暮らし作りの練習を行う場として、スタートしました。

基本的には金銭管理・生活面(調理・洗濯・掃除)・健康管理(通院・服薬)・安全管理等を利用者に応じた支援をしつつ、施設生活から地域生活へと移行できるようにしていきたいと考えています。

今までの学園での生活は金銭面では管理をしてもらい、日用品は必要であれば支給され、食事の時間に席に着けば食事が目の前に用意されている、いつも援助されている生活を送っていました。

今のステップハウスでの生活は一八〇度違い、生活全般を自分で考え、判断して行動しなければならないことに戸惑いも多かったよ

うです。

一ヶ月分の生活費を用途ごとに仕分け、本を片手に頭を悩ませながら献立を考え、買い物にかけ食事の支度をする。

このようなステップハウスでの生活経験が自信へとつながり、学園から退寮し、社会生活を送る大きなステップアップになってくれるように、支援していきたいと思えます。

養護老人ホーム

望みの門養護生園 五〇人からの贈りもの

支援員 中間 良子

「夜勤ですのでよろしくお願いします。」

「あら、あなたも大変だわね。こちらこそよろしくね。」

と言いながら私の両手を自分の両手ですっぽり包んでくれている。

夜勤は五〇人と私を一体化してくれる。朝三時ごろから夜勤明けのスタート。時間との闘いで運動会のように走り回る。そんな時も過ぎた。

「無事でよかった。」ホッとしながら見回りをすませた朝六時、手を何回もすり合わせて太陽に向かってお祈りをしている人がいる。

その心静かなたたずまいに思わず足が止まったり。あるとき、扁桃腺を腫らした。唾を呑み込

むのに悲鳴をあげながらの夜勤をした。「のどにつけるといいよ。」

利用者から蜂蜜と綿棒を渡された。胸がじんとした。

「この仕事の醍醐味は夜勤よ。」先輩のその一言がほんの少しわかった瞬間。

「もうダメだ。」

「もうやめた。」そんな弱音を吐くたびに、五〇人はしばんだ私に新しい命を吹き込んでくれる。

かけがえない贈りものをもらっている。

特別養護老人ホーム

望みの門紫苑荘 秋の遠足に行ってきました

施設長 簾 昭博

秋の模様も何処へやら、急に寒さが厳しくなってきました。

紫苑荘では、一〇月から十一月にかけて秋の遠足を行いました。富津市の金谷にあるレストランのフィッシュやマザー牧場そして施設に程近



いファミリーレストランのガスト、ジャスコ等に行ってきました。

春に一度出かけた以来の外出ということで、皆さんとても楽しみにされており、半ば興奮気味の方もいらっしゃいました。

食事の後は去年新設された児童養護施設「かずさの里」や東京湾観音に寄り道をして帰ってきました。利用者の皆様にはご満足いただけたようで感謝です。

これからは寒くなりますので、ご利用者の健康状態と相談しながら、施設内での楽しみやクラブ活動を催していければと考えております。

知的障害者通所授産施設 望みの門新生舎 施設報告

主任生活支援員 小幡 太一

障害者自立支援法が全面施行され一年余が経過しました。利用されている方々にとって一割負担と食費等実費負担は過重なものとなっております。施設においても様々な工夫をして運営してきましたが、その収入減は免れないものとなっております。

授産部門においても、のぞみベーカーは主原料の小麦粉他原材料の高騰等により、また、エコクラブも度重なる大雨、強風等の自然災害等により思うように利益が上がらない

状況です。

しかし、どのような大変な状況であっても、基本は利用者主体ということであろうと思えます。

新生舎では利用者さんの日頃の努力に報い、明日の活力を養い、何よりも社会性を身につけるため「社会学習旅行」と銘打ち、一月一日(土)東京ディズニーランドへ行って来ました。

そこは、訪れる人のすべての夢を受け止めて、ともに笑い、驚き、発見し、楽しみ、幸福になれる場所。そして常に楽しさと感動を創造しています。

私たちもまた障害者福祉に携わる限り新たな創造的な実践を進めていかなければなりません。利用者さんの自立という目的が夢で終わることなく、実際に向けて職員全員が一丸となり支援していくことを心に誓い、「夢と魔法の国」をあとにしました。



児童養護施設

望みの門かずさの里 気持ちを新たに

施設長 戸波 宏幸

開設一年、一二月に入り子どもたちも三〇名(定員)となり、新たな生活が始まっています。改めて子どもたち一人ひとりの暮らしに目を凝らし、やすらぎ活力ある生活がそこに在るか、見つめ直す日々となっています。

この一年様々な機会を通し、「養護施設の使命とは、養育とは」また「家庭的な養育に向けて・・・」等々、児童養護施設の運営のあり方、暮らしのあり方を直に問うような内容、実践に接してきました。

当初より重い課題として受け止めてはいましたが、いざ「今日の我が家」のこととなると整理がつきにくく盲目になるようです。

諸先輩の児童養護施設の運営・取り組みを参考にさせてもらうとともに、自分自身の幼い日の暮らし、家族への思い、また自分の子育て、子どもへの思い、福祉現場での経験等を思い起こしながら、大きな命題に今も葛藤しているところです。

住まい、時間の流れ、子ども仲間・大人とのふれあい、憩い安らぎ等、人が生き活きと暮らすには、多くの要因が日々巧みに調和してこそと思います。「落ち着き暮らせる家」に向け、衣食住はもとより、スタッフ一人ひ

とりの情熱・支援が「匠」となっているか、今一度子どもたちの目線で見直してみたいと思います。使命として。

高齢者在宅三部門

小さな菜園

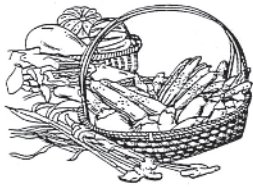


副施設長 白鳥 尋子

今年から本格的に行っている菜園。範囲は決して広くはありませんが、利用者の皆様にとっては、楽しみの一つのようなのです。実際は職員の手が大きく加わっておりますが、リハビリや散歩がてら、外に出ては作物の成長を眺め、他の利用者さんや職員に話していただきます。

見る楽しみだけではつまらないもの。夏には焼きとうもろこしや採りたてトマトにかぶりつき、秋は畑の脇での焼きイモ。頬張っている皆さんの顔を見ているだけで、おいしさが伝わってくるようでした。

この味を利用者のご家族の皆さんにもお伝えしたく、今後は、利用者で希望する方にはわずかですが野菜のおすそ分けを行う予定です。利用者さんと職員との合同作品です。味は皆さんが保証済み。収穫は間もなくです!!



一体型共同生活介護事業所

グレースホーム

世話人の二目

世話人 天野 典子

朝七時一五分、「おはようございます」と玄関のドアを開けると聞こえてきます。彼女らの第一声が…。「頭が痛い」「歯が痛い」「お茶を沸かして」「今朝のおかずはなあに」と一度に話かけてきます。その声や仕草で体調を確認します。おかしいなと感じた時には直ぐ、通院を考えます。

九時には、一日の活動場所である新生舎・ヨカデイに出勤です。世話人は一〇時で一旦勤務は終了ですが、この後に、食材・日用品の買い出しに行くことも多く、また、歯科・眼科・皮膚科・耳鼻科・内科等の通院の付き添いに行くことがあります。高齢化が進むグレースでは、健康管理はとても重要な世話人の仕事のひとつです。

さあ再度勤務開始です。午後三時半、みんなが帰ってきます。おやつを用意して出迎えます。お風呂も沸いています。お風呂に入ったり、洗濯したりとそれぞれ世話人の手助けを受けながら行います。

世話人は、夕食の調理に取りかかります。「今度・・・が食べたい」との希望も多く、ヘルシーになるように心がけながらも、季節感が感じられるような食事を提供しています。

世話人と囲む食卓は、温かい物は温かく、冷たい物は冷たいまま食べることが出来ます。夕食後はテレビを観たり、音楽を聴いたりゆっくり過ごします。世話人は翌日の準備をしたり、また悩みごとを聞いたりして過ごします。

夜九時には、夜間管理の宿直者に体調の不調者等の連絡を行い、やっと世話人の勤務時間には終わることになります。「今日は体調の悪い人はいません。安心です。」

以上のように、世話人は利用者ひとりひとりの生活を支えています。

中核地域生活支援センター

津市生活支援センター

クリスマスおめでとう

センター長 佐野 毅

今年一年を振り返って見ますと、七月には、障害福祉関係者が待ち望んだ「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が、全国初の「障害者差別禁止を目的とした県条例」として施行されました。また、一月には、全国一斉に「子どもの虐待防止月間」として、県内各地で「虐待防止キャンペーン」を行い、富津市役所での「虐待防止シンポジウム」や、袖ヶ浦駅頭での「虐待防止啓発ちらしの配布活動」など、管内の啓発活動にも積極的に参加協力してきました。

一二月には、木更津市内の福祉NPO団体と協力して、「児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉の総合的な啓発イベント」吹く詩の宴」を、かずさアカデミアホールで開催しました。

君津ふくしネットは、「健康福祉千葉方式」によって、「誰もが、ありのままに・その人らしく、地域で暮らすことができる」新たな地域福祉像の実現を目指して、対象者横断的な福祉の総合相談支援センターとして、来るべき新しい年も、相談者の方に寄り添った相談者本意の支援活動を展開してまいります。クリスマスおめでとうございます。

地域生活支援事業

望みの門ヨカダイ サービスセンター

待望の東京湾ラエリー

副主任指導員 樋口 千恵

今年度に入り三名の新規ご利用者を迎え、現在一五名の方が在籍されている、元氣いっぱい明るいヨカダイですが、実は平均年齢六〇歳。健康面でも心配な事が増えてきており、事故防止や病氣予防に配慮しながら日々の活動を行っています。

一〇月の行事として一八日、遠足で久里浜へ出かけました。少しおしゃべりをした皆さんが乗り込んだバスの中は暑いほどの良い天気。

穏やかな海のフェリーでは空いた船内でコーヒーを飲みながらのんびり過ごし、デッキにてご機嫌な写真も撮ることもできました。時間の関係フェリー中心の遠足となりましたが、それでもお土産を買ったり海を見ながらソフトクリームを食べたりと日常と違う景色の中で楽しんでいただけようです。残念ながら体調不良等で参加されなかったお友達の為におこづかいからお土産を相談されている姿に職員も感動、大満足の一日でした。

利用者の方々はどうのような行事でも本当に楽しみにしてください。毎日の活動も懸命に取り組んでいます。身体機能の変化や体制制限等も考慮しながら、これからは皆さんの期待に副えるべくプログラムを立てていけるよう、努めていきたいと思っています。



東京望みの門 児童自立援助ホーム

マナの家

こどもたちの仕事

施設長 目黒 眞理

児童自立援助ホーム「マナの家」には現在一六歳から一九歳の少女六名(定員六名)がおります。毎日七時、いい匂いのお皿を前に、お祈りをしてから朝食。先月入寮したAちゃん、マクドナルドの朝のカウンターの仕事のため、一番にパンを焼いて食べ、七時半には小さな自転車で出勤し、昼には仕事を終えて帰ってきます。

他の五名は、八時から八時五〇分の間に皆自転車で出勤してきます。Bちゃんは駅前のクリーニング店の店長さん。朝九時から二〇時まで、一日一時間を週六日勤め、二五万円もの給料を手にします。アパートへの自立退寮のため、せつせと貯金しています。

Cちゃんはコンビニの店員。朝から夕方まで、午後から二一時までの日があり、門限ギリギリになることも。寮では大人に対して緘黙ですが、仕事の時は別人。「いらっしやいませー」と元気に声を出し働いているようです。

Dちゃんはクリーニング工場勤務です。入寮して五日目から、暑く厳しい仕事を、休まずに週六日続けています。

養い守られる事のない境遇に在る娘たちは、寮費を払い、自立のための貯金をしながら、今日も元気に仕事へ出掛けていきます。

それぞれにいろいろな事情を抱え、たった一人でこの家に来た娘たち。

「おかえりなさい」と迎え、職場でのストレスや、人との関係における緊張を少しでもほぐせるよう、ゆっくりの夕食から消灯までの時間を大切にしています。

法人事務局だより

法人事務局次長 西尾 建

のぞみ会では、開かれた法人を目指して、のぞみ会を応援してくれる方や関心を持ってくださる方に情報の発信手段のひとつとしてホームページ（以下「HP」）を公開しております。この度、このHPを全面的にリニューアルし、アドレスも分かり易い所にお引越です。

このリニューアルは、法人の中・長期の計画を構想する戦略会議の中で「HPが作られたばかり、更新されていない」ことが話題に上ったことから始まりました。コンピュータ関連は、不得手の分野に入るのであろうのぞみ会は、HPを更新するにも職員だけのレベルでは困難で外部に依頼して更新してもらおう状況でした。しかし、できる限り情報をリアルタイムで発信したいと、職員が自分たちの力で頑張ることを決め、各施設にHP担当者置いて担当者の手により更新することで計画をしま

した。勿論、立ち上げるまでの段階は、職員だけでは困難ですので外部に依頼を致しましたが、何とか現在、職員の手で運営中です。フレーム以外は担当者の手作り状態ですの見映えがあまり良くないかもしれませんが、温かみのあるHPづくりとリアルタイムの更新を心掛けていきたいと思っています。皆様のご意見・ご感想をお寄せ頂ければ幸いです。

「新HPアドレス」
<http://www.nozomihonon.or.jp/>

十一月二〇日から「軽井沢の家」受付電話番号（事務局直通番号兼用）が変更となりましたのでお知らせいたします。

「新電話番号」 0439 (87) 9381

「望みの門かずさの里」感謝祭収支報告

望みの門バザー実行委員会

去る、11月3日に行われた感謝祭の収支を次の通り報告させていただきます。また、収益をのぞみ会に寄付できましたことを申し添えます。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

収入		支出	
売上	251,650円	材料費等	126,703円
寄付金	45,000円	のぞみ会金の寄付	169,947円
合計	296,650円	合計	296,650円

編集後記

冷えこむようになった。紆余曲折はあったが郵便局も民営化された。時代の流れは激しい。帰途天空を仰ぐ。冬の天気の中で月が蒼く美しい。十二月二日、「望みの門かずさの里」は一才の誕生日を迎える。這えば立て、立てば歩めの親心と言うが、沈滞せる児童福祉の中にあつて、一日も早く立派に成長してほしい。さて、今号の巻頭言には、元新生舎舎長現理事の山口さんに玉稿をいただいた。

今もお元気でボランティア活動に励んでおられる。誠に感謝。十一月三日には前記の「里」にて感謝祭が行われた。佐京事務主任の連意の文章のとおりである。メイフラワー号の清教徒にも触れ、クリスチャン以上の博識ぶりに敬服。これからの活躍を祈る。才一待降節主日礼拝も間近となった。本年のクリスマスは十二月二十二日（土）「里」で行われる。礼拝と祝会、はじめての子ども達の聖誕劇がたのしみである。羊たちに紛する幼児たち、まわりの牧人、星を頼りに贈物を持参し、イエスをさがす博士たち、満天の星が輝く。ミシュランの星などどうでもよいではないか。天に栄光神にあれ！地には平和人にあれ！

(Y・I)

